

化学物質安全性(ハザード)評価シート(要約版)

整理番号	2001 - 22	官報公示 整理番号	2 - 1039(化審法) 1 - 315(化学物質管理促進法)	CAS 番号	688-84-6
名 称	メタクリル酸 2-エチルヘキシル 別名: 2-エチルヘキシルメタクリレート EHMA		構 造 式	CH ₂ = C(CH ₃)COO - CH ₂ CH(C ₂ H ₅)C ₄ H ₉	
分 子 式	C ₁₂ H ₂₂ O ₂		分 子 量	198.31	
市場で流通している商品(代表例) ¹⁾ 純 度 : 99%以上 不純物 : メタクリル酸メチル 添加剤又は安定剤: ヒドロキノンモノメチルエーテル					
物理・化学的性状データ 外 観: 無色液体 ²⁾ 融 点: 文献なし 沸 点: 229 ³⁾ 引 火 点: 100 ³⁾ 発 火 点: 文献なし 爆発限界: 文献なし 比 重: d ₄ ²⁰ 0.884 ³⁾ 蒸気密度: 6.83 (空気 = 1) 蒸 気 圧: <100 Pa (<1 mmHg) (20) ⁴⁾ 分配係数: log Pow ; 4.54 (実測値) ⁵⁾ 加水分解性: 水中で加水分解を受け、メタクリル酸及び 2-エチルヘキサノールを生じる 解離定数: 文献なし スペクトル: 主要マススペクトルフラグメント m/z 70 (基準ピーク, 1.0)、69 (0.93)、41 (0.70) ⁶⁾ 吸脱着性: 文献なし 粒度分布: 該当せず 溶 解 性: 文献なし 換算係数: 1 ppm = 8.24 mg/m ³ (気体, 20) 1 mg/m ³ = 0.121 ppm					

総合評価

1) 危険有害性の要約

ヒトでは、皮膚の局所刺激性はみられないが、交差感作性を示唆する報告がある。

実験動物では本物質の急性毒性は経口投与では弱い。刺激性は軽度から中等度と報告されている。皮膚感作性については陽性の報告がある。反復投与では腎臓、肝臓、血液系への影響、延髄の病理組織学的変化の報告がある。変異原性・遺伝毒性に関して、*in vitro* 試験で陰性である。発がん性についての報告はない。生殖発生毒性では母動物に妊娠期間の延長と分娩の異常がみられ、児動物に新生児数、生存児数、出生率、生存率の低下がみられている。催奇形性がみられた報告はない。

本物質は環境中に放出された場合、水圏では生分解されやすい。大気中ではOH ラジカルとの反応が関与しており、半減期は1か月以内と計算される。環境省のモニタリングデータでは底質から検出されたことがある。水圏環境生物に対する急性毒性は強い。

2) 指摘事項

- (1) ヒトで交差感差性があるとの報告がある。
- (2) 実験動物で、腎臓、肝臓、血液系への影響及び延髄の病理組織学的変化がみられ、新生児死亡など生殖への影響がみられている。
- (3) 化学物質管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、排出量の管理が必要である。

参考資料

- 1) (社)日本化学工業協会調査資料 (2001).
- 2) 通産省化学品安全課監修, 化学品検査協会編, 化審法の既存化学物質安全性点検データ集, 日本化学物質安全・情報センター (1992).
- 3) 13901 の化学商品, 化学工業日報社 (2001).
- 4) Hazardous Substances Data Bank (HSDB), U.S. National Library of Medicine (1998).
- 5) PhysPro Database, Syracuse Research Corporation.
- 6) NIST Library of 54K Compounds.